

資本論学習(参考辞書) 2018.9.11

☆「第一版の序文」(1867.7.25 マルクス)

◎メドゥサの頭…ギリシア神話に登場する怪物。見たものを石に変える能力を持つ。頭髮は無数の毒蛇。海の神であるポセイドンの愛人、ポセイドンとの間に天馬ペーガソスと巨人クリューサーオール(「黄金の剣」の意)がいる。メデューサはペルセウスによって首を切り落とされ、退治された。

◎ペルセウスの魔帽…ゼウスの子供ペルセウス。ペルセウスはアテナとヘルメスに力を貸して下さるよう頼み込みます。メデューサの首を切るための鎌ハルパーを、メデューサを直接見ることなく済むように特別な鏡のように磨き上げられた青銅の盾、妖精達から翼のあるサンダルと、被ると姿の消えるハーデスの黒いかくれ帽子、メドゥーサの首を入れるのに必要となる魔法の袋キビシスを借してもらえました

◎闡明セメイ…明瞭でなかった道理や意義を明らかにすること。「教義を闡明する」

◎イギリスの高教会派…イギリス国王を首長とする教会。国教会は名誉革命でイギリスの国家宗教としての地位を確立したが、同時にその内部に「高教会派」と「低教会派」という分裂と対立。

※ 1688年名誉革命…議会政治と国教会制度を柱とするイギリスの立憲君主政治が確立。

1689年「権利の章典」=「臣民の権利及び自由を宣言し、王位継承を定める法律」制定。

※「高教会派」…ハイ=チャーチ。教会・聖職者・典礼の権威を高く保とうとし、国教会からピューリタンの要素を排除することに熱心。彼らの一部は名誉革命と議会王政を否定して臣従の拒否を宣言。

「低教会派」…ロー=チャーチ。伝統と典礼よりも聖書にそくした信仰を重んじ、ピューリタンたち非国教徒との協力・興隆を排除しなかった。つまり、1689年の寛容法の精神に忠実に、非国教徒共に「名誉革命体制」を担っていく主体だった。

◎紫の衣…ローマ帝国の歴代皇帝が紫の衣。シーザー、クレオパトラ、アントニウスが好み。「パープルを着て生まれる」=特権階級にあるの意味に。

※紫衣(しい、しえ)は、紫色の衣服である。日本や中国では、高官が身に付けるべき高貴な色とされた。紫色は、「高貴なイメージで位の高い人にだけ許されていた色」なので、70歳を迎えた方への敬意といたわりの心から、古希の色となりました。

※「兵士たちはイエスを、…そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、それから、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」と叫んで…また、葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり、…彼らはイエスを嘲弄したあげく、その紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエスに着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。」(マルコ 15:16 - 20) ※辱めのきわみとしてのイエスの死

◎フィレンツェ人…「格言」は、ダンテの『神曲』の「汝は、汝の道をゆけ、そして人々にはその言うにまかせよ」である。イタリア中部の町

◎ヴィルヘルム・ヴォルフに捧ぐ…

マルクスのそばには絶えずヴォルフがいた。ヴォルフは「勇敢、誠実、高潔なプロレタリアート前衛戦士」であったことも確かなこと。1848年ドイツ革命の勃発とともにマルクス夫妻はブリュッセルを追放になりパリの。ヴォルフはベルギーの官憲に逮捕され暴行。マルクスはドイツに戻り、ケルンを拠点に『新ライン新聞』を発行。ヴォルフも危険をおかしてドイツに帰国し『新ライン新聞』の編集部に入り、ケルン労働者協会の指導も引き受けます。革命の退潮とともにマルクスはイギリスへの亡命、ヴォルフも1851年にイギリスに亡命。ロンドンに亡命したヴォルフは1864年に亡命地マンチェスターでなくなります

◎クーゲルマン…クーゲルマンは、ドイツ・ハノーファー在住の産婦人科医でマルクスの熱心な信奉者でした。労働運動に傾倒し、国際労働者協会の一員だったクーゲルマンはマルクスにとって親友であり同志とも言える存在だった。

◎ 1867年7月25日 ロンドン 第一版の序文 カール・マルクス

※大政奉還(明治維新へ)…慶応3年10月14日(1867年11月9日)

☆「第二版の後書」(1873.1.24 マルクス)

◎官房学… 17世紀から18世紀のドイツで発展した学問。官房学は今日の行政学（警察学）、経済学・財政学にほぼ相当する内容をもつが、実際にはそれよりもはるかに広範な経世論・政策論的領域を対象分野としている。各国・各領邦の経済の行政・管理に関する諸原理の体系をまとめる学問を「官房の学」と称するようになり、これを研究する学者を官房学者。

※浄化… よごれや悪を取り除いて、清浄・清潔にすること。

◎リカード… (1772年-1823年)、自由貿易を擁護する理論を唱えたイギリスの経済学者。スミス、マルクス、ケインズと並ぶ経済学の黎明期の重要人物、その中でもリカードは特に「近代経済学の創始者」として評価

※シスモンディ… スイスの歴史家、経済学者。イギリスの産業革命の諸弊害、大衆の窮乏化を前にして『経済学新原理』（1819）では、恐慌を初めて資本主義体制に根ざす基本的矛盾の必然的な現れとしてとらえ、これを消費を超える生産の過剰、いわゆる「過少消費」説で説明して、資本主義の批判者となった。古典派経済学の最後の人で最初の批判者とされる。

※ジョン・ステュアート・ミル… イギリスの哲学者。政治哲学者、経済思想家でもあり、政治哲学においては自由主義・リベタリアニズムのみならず社会民主主義の思潮にも多大な影響を与えた。晩年は自ら社会主義者を名乗っている。

◎神聖同盟… 1815年にナポレオン戦争が終結、ロシア皇帝アレクサンドル1世の提唱で1815年9月結成された同盟。ウィーン体制下における君主間の盟約。1848年の諸革命で復古体制が崩壊するまで、この同盟は自由主義・国民主義運動に対する抑圧を理念的に支える力となった。

◎穀物条例（穀物法）… 1815年から1846年に施行されていた穀物法が有名。穀物価格の高値維持を目的としており地主貴族層の利益を保護していたが、安価な穀物の供給による労働者賃金の引き下げを期した産業資本家を中心とする反穀物法同盟などの反対運動の結果、撤廃され自由貿易体制が確立した。撤廃は結果としてフランスでのスタグフレーションを促し大規模なものにした。ひいては1848年革命の遠因ともなった。

※コブデン、ブライト… イギリスの政治家、実業家。実業家、熱心な自由貿易主義者、ジョン・ブライトとともに反穀物法同盟の中心人物となる

◎ 1830年革命と1848年革命…

・1830年フランス7月革命… 1830年7月27日から29日にフランスで起こった市民革命である。フランスでは栄光の三日間とも言う。1815年の王政復古で復活したブルボン朝は再び打倒された。ウィーン体制により構築された正統主義は部分的に崩壊し、ブルジョワジーの推すルイ・フィリップが王位に就いた。その影響はヨーロッパ各地に波及し、ウィーン体制を揺るがせた。

・1848年革命… 1848年からヨーロッパ各地で起こり、ウィーン体制の崩壊を招いた革命。
二月革命・三月革命… まず、フランスで二月革命がおり、七月王政が倒れて第二共和政が成立した。続いてフランスの隣でドイツ連邦を構成していたオーストリア、プロイセンなどでも三月革命が相次いで起こる。まずオーストリア帝国の首都でのウィーン三月革命ではメッテルニヒが失脚し、ウィーン体制が崩壊し、さらにプロイセンの首都でのベルリン三月革命が勃発、国王はドイツの統一と憲法制定のためのフランクフルト国民議会開催を約束、普通選挙が行われて5月に開催された。

・イタリアでは、第一次イタリア独立戦争に発展。

・ドイツ… 革命において、中産階層は自由主義に傾倒していたが、労働者階層はその労働・生活条件の急進的改善を要求しており、両者の革命の方向性の対立から、保守的王侯貴族による反革命が成功した。

※共産党宣言… 1848年革命は、ウィーン反動期から資本主義の全盛期への転換点となったが、同時に社会の新たな対立軸は、従来の絶対君主対市民ではなく、資本家階級と労働者階級という階級対立に移ったことを示している。同年に発表された『共産党宣言』は正にその転換点を示す記念碑的述作であった。

☆フランス語版に対する序文と後書（手紙1872.3.18 マルクス）

◎学問には坦々たる大道はありません。そしてただ、学問の急峻な山路をよじ登るのに疲労困憊をいとわない者だけが、輝かしい絶頂をきわめる希望をもつのです。K・マルクス
☆読者に与う 1875.4.28

☆第三版に（1883.11.7 エンゲルス）

◎マルクス 1818年5月5日～1883年3月14日（64歳没）
エンゲルス 1820年11月28日～1895年8月5日（74歳没）

☆英語版の序文（1886.11.5 エンゲルス）

「(恐慌・継続的で慢性的な不況の出現と失業者たち) 少なくともヨーロッパにおいては、イギリスが全く、平和的な合法的な手段をもって不可避的な社会革命を遂行しうる唯一の国であるということである。もちろん彼（マルクス）は、次のように付け加えるのを決して忘れなかった。自分はイギリスの支配階級が『奴隷制擁護の反逆』もしないで、この平和的合法的革命を甘受するであろうとは期待しない、と。」 ※※

☆第四版に（1890.6.25 エンゲルス）

※イギリスの大蔵大臣グラッドストーン演説を巡る真偽論争
参照 - 「国際労働者協会創立宣言」（全集 16巻 3p-11p）
引用文は 5p 下段「国民の進歩」云々…

